

凡 例

- 一、本書ハ本邦固有ノ土産植物ヲ網羅シ、且外國種ニシテ我邦ニ栽植セラ
ルル植物、及ビ或ル機會ニ乗ジテ渡來シラ野生品ト成レル植物ヲモ併
載シ、之レヲ圖說セル者三千二百六種ニ及ビ、併セテ其近似種或ハ亞・
變・品種ノ同一圖說中ニ解説セル者ヲ合算スレバ優ニ三千五百品種以上
ニ達ス
- 一、本書ニ在テハ、科ノ撰定并ニ順序ハ特ニ其一二ヲ除クノ外一ニえんぐ
れる(A. Engler)氏ノ最新分類式(Syllabus der Pflanzenfamilien, 1936.)
ニ準據シ屬及ビ種ハ現在適當ト認ムル自然分類系ニ排列セリ、而シテ敢
テ下等植物ヨリ始メズシテ斷然高等植物ヲ首ニ置キ遞次下等植物ニ及ボ
シタリ、即チえんぐれる氏ノ排列ヲ故ラニ轉倒シタル者ニシテ、是レ今日
我邦ニ在テ學修上並ニ教育上最モ當ヲ得タル處置タルヲ確信スレバナリ
- 一、今日次ヲシテ自然分類表ヲ兼ネシメシハ以テ簡素ニ從ヒシナリ
- 一、學名ハ現今最モ適切ナリト認識セシ者ヲ採用シテ和名トニ置キ、舊名
並ニ異名ハ其必要ニ應ジ小活字ヲ以テ更ニ其次位ニ列記セリ
- 一、植物ノ和名ハ本邦本來ノ假名遣ヲ用キ、主トシテ今日我邦植物學界ノ
通稱ニ從ヒタリト雖ドモ、其誤謬ナリト認メシ者ハ斷然此ニ是正シ以テ
之レヲシテ本然ノ稱呼ニ歸セシメタリ、又和名之レ無キ者ハ更ニ新名稱
ヲ定メテ之レヲ用キタル者アリ、和名ノ解及ビ其語原ハ文末ニ記シテ其
語義ヲ明ニスル事ニ力メタリト雖ドモ、我ガ學足ラズ我ガ識淺キヲ以テ
恐ラク其間誤謬必ズ多カラシ、幸ニ識者ノ垂教ヲ得テ以テ漸次ニ之レヲ
訂正セン事ヲ庶幾セリ
- 一、今日我邦漢藥ノ研究日ヲ逐テ漸ク熾ナラントスル時世ニ際シ植物漢名
ノ必要ナル事敢テ論ヲ俟ズト謂フベシ、然レドモ從來本邦學者ノ使用セ
シ者錯誤百出シ敢テ信ヲ措クニ足ラザル者多キヲ以テ、本書ニ在テハ之
レニ劃期的ノ再審考察ヲ加ヘ之レヲ登記セリ、即チ和名標題ノ次ヘ括弧
ヲ以テ録セル者ハ小生ノ觀テ以テ適正ナリト認ムル漢名ヲ載セ、多少疑
義アル者ハ之レニ？符ヲ附シ、且本文末ニ於テ從來我邦ニテ誤用或ハ慣
用セル漢名ヲ示シタリ
- 一、科名ハ本文ニ於テハ從來襲用ノ漢名式ヲ全廢シテ吾ガ本來ノ持論主張

タル假名式ニ改メタリト雖ドモ卷頭分類目次ニ於テハ特ニ之レノ漢名式
ヲモ併記シ以テ聊カ滿支トノ文化提挈ニ供シタリ、而シテ此漢名式科名
ハ固ヨリ植物個體ノ漢名ニ非ラズシテ科全體ヲ代表スル漢名トシテ使用
セシ者ナレバ豫ジメ了解アラン事ヲ望ム、且又適當ト認ムル漢名之レ無
ク或ハ之レヲ得ザル者ニハ姑ラク和名ヲ基トスル漢字名ヲ以テ之レニ充
當セリ

- 一、下等植物ハ羊齒類、蘚苔類、地衣類、菌草類、海藻類、輪藻類ニ大別
シ、蘚苔類并ニ其以下ノ數類ハ各專門家ニ由リ最モ普通ノ肉眼ノ大型種
ヲ撰ビ顯微鏡ノ微生物ハ今悉ク之レヲ省略セリ、即チばくてりあ類、浮
游植物類、黴菌類ノ如キハ本書ニ於テハ一切之レヲ除キタリ
- 一、本書ハ前述ノ如ク無論日本植物ヲ主トシ、外來植物ニ在テハ總テ其由
來ヲ明ニセリ、而シテ外國産ノ著名ナル植物ニシテ從來人口ニ膾炙セル
者ハ便宜ノ爲メ若干之レヲ載セシ者アリ、是レ蓋シ覽者ノ聊カ便トスル
所ナラン乎
- 一、普通并ニ重要ナル植物學術語ヲ卷末ニ附録シ本文ノ記事中植物學ノ專
門術語ヲ解説シ覽者ニ便セリ
- 一、學名索引ハ門・綱・目・科・屬名ヲ同處ニ輯メ太文字ヲ以テ之レヲ表シ、
種・亞種・變種・品種名等ハ所屬名ヨリ一段低ク普通字ヲ以テ之レヲ記セ
リ、頁數字中其括弧アル者ハ本文中ニ登載シアル植物ニ係ル、屬・種名ニ
ハ一々語意ヲ添加シテ初學者ニ便セリ
- 一、和名索引ハ本邦本來ノ假名遣ヲ以テ之レヲ表音(發音)式ニ排列シタ
リ、即チイトキ、イト發音スルヒ、オトラ、エトエ、エト發音スルヘ、カ
トカト發音スルクワ等々ヲ總テ同處ニ列置シ、更ニ濁音モ亦清音ト併列
セリ、而シテ是等ヲ嚴格ニ發音スル時ハ當ニ區別アルベキモ此處ニハ實
用ニ便ナルヲ期セシナリ、尤モ第一字目ニ於テ變更アル者例ヘバテウ
(チヨウ)ノ如キ場合ハテノ部ニモ掲ゲ更ニチノ部ニモ載セタリ、頁數字
中其括弧アル者ハ本文中ニ記載シアル者ニ係ル、更ニ同物異名、異物同
名等々アレバ索出ノ際注意スベシ
- 一、漢名索引ハ漢字ノ全畫ニ從テ輯メ而シテ同字ヲ一處ニ排列シタリ、
最初ノ數字ハ頁數ヲ表シ、括弧中ノ數字ハ圖ノ番號ヲ表ス